

横浜市の中学校で総合学習



1 グループのロープ結索
(説明は、廣森広報官)



2 グループのロープ結索
(説明は、赤間広報官)

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所(所長 平原一陸尉)は令和2年9月8日(火)及び9日(水)の両日、老松中学校(横浜市)で実施された総合学習を支援した。これは学校から要望を受け、中学2年生の約140名を対象に2日間にわたり講話と体験実習を実施した。

初めに所長から自衛隊の仕事紹介と災害派遣について説明をした。生徒はこれまで大きな災害をほとんど経験していない様子で、東日本震災での自衛隊の災害派遣のDVD視聴になると、机に前のめりになって見入っている生徒も見受けられた。

体験実習のロープ結索では、部隊での経験豊富な広報官が結び方をゆっくり丁寧に説明すると、生徒らはそれを真似しながら真剣に取り組んでいた。

最後に生徒からは「自衛官の仕事の大変さがよくわかりました」「いつも日本を守ってくれて有難うございました」など心のこもった言葉をもらい、この学習での成果を確認できた。

横浜中央募集案内所は「今後も学校からのあらゆる教育支援の要望に前向きに対応するとともに、学校との連携を深化させて、自衛隊への理解促進を図っていききたい」としている。



所長の話聞き入る生徒達

現役海上自衛官との交流会を開催



自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所(所長 内山2空尉)は、令和2年9月11日(金)同事務所において、現役自衛官との交流会を実施した。多くの参加者があり、自衛隊を志す受験生12名が集まった。当日は、井坂広報官の元職階である海上自衛隊厚木基地所属の隊員2名(現役のパイロットと戦術航空士)が、課業時間外を利用し事務所へ足を運んでくれた。受験者たちの前に登場した2名の現役の海上自衛官を見て、受験生から歓声が上がリ、また一同に驚いていた様子であった。

2名の隊員は自己紹介の後、勤務内容やこれまでの訓練経験及び海上自衛隊を選んだ動機等について、語ってくれた。その中で、特に任務で国外へ行ったことやハワイで米軍と共同で行った訓練について紹介されると、受験生は「こんな訓練もあるんですね」「海外で訓練を行う事を知らなかった」等、興味を示していた。海上自衛隊の航空部隊についての話を初めて聞く受験生が殆どで、熱心にメモを取りながら隊員の話に聞き入っている様子が見られた。

市ヶ尾募集案内所は「現役のパイロット及び戦術航空士と交流できる機会は、極めて少なく、受験者たちのモチベーションアップにもつながった。引き続き、受験者たちをフォローしていき、一人でも多く入隊へと導いていきたい」としている。



海上自衛隊艦艇見学



艦内での訓練の様子



護衛艦「まや」をバックに記念撮影

自衛隊神奈川地方協力本部溝の口募集案内所(所長 倉橋准陸尉)は、9月12日(土)海上自衛隊横須賀基地において、横須賀地方総監部の支援を受け、護衛艦「まや」の艦艇見学を実施した。これは募集対象者に対し、海上自衛隊の任務説明、艦艇見学を通じて洋上に出た際の艦内での訓練風景を見学させることにより、自衛隊に対する理解と認識を深めてもらうことを目的としている。

当日は新型コロナ感染防止のため少人数10名で参加し、グループに分かれ艦内を見学した。護衛艦「まや」は海上自衛隊7隻目のイージスシステム搭載護衛艦で海上自衛隊では一番新しい護衛艦ということで、それを見学できると知った時の対象者の喜びは大きいものであった。

また全般を説明していた海上自衛官は、元陸上自衛官であり陸上自衛隊の話を含めた自衛隊の経験談を話してくれたことで、自衛隊への関心が一層深まった様子であった。

溝の口募集案内所は「今後も新型コロナ感染防止策を講じ、部隊見学や体験航海を通じて自衛隊を知ってもらう場を増やし、多くの対象者に自衛隊の活動について理解してもらい自衛隊の魅力伝えながら募集業務に励んでいきたい」としている。